

2009年2月24日（火）

■タイトル：シュタイナーとモンテッソーリのメモ（文責：どんぐり倶楽部・糸山泰造）

■シュタイナーとモンテッソーリのメモ in the log of BBS

※どちらも「デンタクくん」に代表される「バイオフィードバック&マッチングの利用」の重要性に気付かなかった（気づきが不十分だった）ことを非常に残念に思います。

※体で感じるべきことを教具という感じられないモノでできる（感じられる）と勘違いした点が致命的なのです。表面的には計算なども出来るようになりますので、気付くことはいつそう難しいと思います。ですが、繊細に検証すれば誰でもわかります。

人間の部位で数を感じる識別できるのは手だけなんです。

触察では通常は、

- ・凹凸→圧力→バランス
- ・温度→寒暖

目は形なんですね。

教える方は、ここを意識できなければいけないんです。もちろん、いい所はたくさんありますが、この非常に重要な点に気付いていないことは大きな損失（欠陥）であり、全体の理論的な基盤を揺るがすものになってしまうんです。

<往復書簡：オランダ⇄日本>

どんぐり先生はじめまして。

先日オランダより秋のSP-CDをお願い致しました●●と申します。

おかげさまで昨日無事CDを受け取らせていただきました。

迅速に対応していただき本当にありがとうございました。

どんぐり倶楽部さんのことは、小3の息子の学習方法で悩んでいた時に、M学習のK先生のところで知りました。

私には子どもが三人おり、それぞれシュタイナー学校の中、小、幼稚園に在籍中です。

小3の息子の方は学校は楽しいと言うものの、学習意欲が薄く注意力散漫と担任の先生から度々注意をうけてきました。息子は言葉が遅く小3の現在でも日本語も現地語も遅れ気味です。そのため授業を十分に理解しきれていない部分があるようです。家庭の事情があり日本人補習校には通わせてきませんでしたので、日本語は家庭で学習してきましたが、ドリルを使いながらの学習には限界を感じていました。そんな時どんぐり倶楽部さんと出会い、どんぐり先生のお考えに深い共感を覚えました。先生のお考えにシュタイナーとの共通点を感じられたからです。先生のご本やHP.過去ログを読ませていただくうちに、

してはいけない学習はさせてはこなかったものの、

しなくてはいけない学習もしてこなかったのではないかと今の息子の様子を見て強く感じています。

先月より週一回のペースでどんぐり問題に挑戦していますが、文章をよく理解せずただ数字合わせをして答えを出そうとしているのがわかります。

「よく考えてごらん」と言えば

「分からない」「出来ない」と言い、

明らかに考える力が育っていない事が分かり大変ショックでした。

娘が良く学び考える事が好きな子どもだったので同じ学校に通っている息子も自然と学ぶ事に興味を示しそうになってくれるのではと過信していました。学校に子どもを任せ安心していただけの愚かな母親でした。

シュタイナー学校に通う事になった時、先生が言われた事は「学校はあくまで家庭生活の延長線上にあるものです。」と家庭生活の重要性を強調したものでした。娘が幼稚園の頃の話ではありますが子どもをよく見て丸ごと受けとめ温かい愛情で見守ってあげると言う姿勢は子どもを教育していく上では基本中の基本でした。私は息子に対してその大切な気持ちを忘れていたのかもしれませんが。

そして、その結果が今の息子の状態なのかもしれません。息子は気持ちが優しく神経質なところがある子どもなので体が弱く寝込みがちな私に対しての心配や不安感がずっとあったと思います。また夫がしつけにとっても厳しい人なので余計に心が安定できなかつたと思います。

その事に気がついてからは、できるだけ息子に不安感を与えないように安心感を与えるように努めています。時間はかかるかもしれませんが、でも母親の私が変われば息子の様子にも必ず変化が見られるのではないかと思います、理想どう

りでも完璧でなくても、ただただ見守って愛されている実感を感じさせたいと思いました。正直なところ勉強の遅れは気になりますが、嫌々やっても身に付かないのはわかっているので楽しいという気持ちが損なわれない量として

一日漢字一文字を大きく片方のページに書かせてそこに息子がイメージした絵を描き、もう片方のページには書いた漢字を使った短い文を書いて終わりにしています。

この方法にしてから漢字の勉強が楽しいと言うようになり、ノートは宝物になりました。

相変わらずどんぐり問題には悪戦苦闘していますが、算数だけでなく国語の力もつく問題だと思えますのであせらず、じっくり取り組ませようと思います。今はとにかく学ぶことは楽しいという事を教えたいです。私はこちらの教育事情には詳しくはないのですが時代の流れなのか、シュタイナー学校は以前より公立化してきているような気がします。息子のクラスは他の学年と比べ生徒数が多く、先生一人では十分に子ども達の様子を把握できない状態です。また表面的な学習効果を求める父兄が非常に多く、先生にもそれを期待しているようです。

息子の話では確認学習のため度々大量の計算問題をタイムを計ってさせたりしてきたそうです。また指折り算はやめて暗算をするようにと繰り返し注意されたとも.....（息子は未だ指折り算です。）以前ではとても考えられなかった事がシュタイナー学校の中でも起こっています。

もしかしたら知らなかっただけで以前から同様の事はあったのかもしれませんが。でもまわりで何が起こってもやはり「自分の子どもは自分で守る」しかないのですね。どんぐり先生のおかげで覚悟ができました。ありがとうございます。先生がご多忙なのにとりよめのない文章を長々と書いてもうしわけありませんでした。まだまだ勉強不足を感じています。これからも先生のご本やHP.過去ログで勉強を続けさせていただきたいと思っています。どうぞ宜しくお願いいたします。先生もどうぞお体をお大事にお過ごしくださいませ。失礼いたします。

<返信>

「どんぐり倶楽部」のItoyamaです。

●日本でもお母さんは大変ですが、外国では尚更ですね。ですが、人間育てです。「ゆっくり・ジックリ・丁寧に」いきましょう。

シュタイナーは人間が生まれてからも進化すること（脳内進化）に気付いてただけで理論や学習方法を確立してはいません。理論は中途半端ですし学習方法は素人です。ですから、教育の指針にブレがあります。丸ごと受け止めるという大前提が正しかったのが救いです。が、それ以上ではありません。最初にシュタイナーについて読んだとき（私は人智学から入りました）にピンと来ました。時代の要請（教育ではなく調教の要請）を凌駕することは出来ないだろうと。見せる教育と同じように見せない教育が大事であることと同様に、させる教育と同じようにさせない教育も大事なんです。「できるからさせる」「できるようにさせる」は幼児・児童期には非常に危険なのです。

●お母さんはお子さんと一緒に元気にならなければいけませんよ。もしも、日本に戻られる予定があるのでしたら、小学校の算数の教科書を全学年分揃えておくといいですよ。半年もあればマスターできる内容であることが分かります。では、また。

<返信>

どんぐり先生、こんにちは。お忙しいなか早々にメールをいただきありがとうございます。先生のあたたかいお言葉におもわず涙がこぼれそうそうになりました。先生のお考えをお聞きして、今まで感じてきた疑問がようやく解かれます。遅すぎたかもしれませんが、でも私にはそれだけの時間が必要だったのかもしれないと思っています。初めて、どんぐり倶楽部さんのHPに出会った時、暗闇のなかにひとすじの光が見えたように感じました。それが今は確信に変わりました。うまく言葉に表すことができませんがそのように「感じた」のです。これからは迷う必要なく歩んで行けます。「どんぐり」でこどもと一緒に元気になります。どんぐり倶楽部とどんぐり先生に出会えたことを心より感謝しています。今、オランダはとちの実がたくさんなっています。（こちらではKastanje（カスタンイエ）と言います。）花屋さんやスーパーの野菜コーナーにはオレンジ色のかぼちゃPompome(ポムポン)が所狭しと並んでいます。四季の変化が少ないオランダで唯一秋を感じさせるものです。日本も秋風の涼しくなってきた頃でしょうか。先生もどうぞお体をおいとください。

どんぐり倶楽部の糸山です。

●ドイツの方でしたら、下記の記事などもいいかもしれませんね。

<http://reonreon.com/wool.html>

一部抜粋：

「どんぐり倶楽部」の考えはシュタイナーの考え方と共通点があります。子供をよく見れば誰もが通過する考え方だと思います。全ての教育者に必要な考え方でもあると思います。

ただし、日本では一般社会(公立学校も同様)に出たときのカルチャーショックを十分に考えて、日本流に工夫された教育を提供することが肝要です。「どんぐり倶楽部」の「良質の算数文章問題」は必須です。

スタートが正しいからといってゴールまで同じ調子で走っていいことは、まずありません。

子育てと教育には成長段階と環境によって細心の配慮が必要なのです。ですから「どんぐり倶楽部」はシュパルタ教育なのです。

Ready-Go-MAP参照

→<http://reonreon.com/ready-go-map.gif>

シュタイナー教育に関するどんぐり先生のコメント

→<http://reonreon.com/shu.html>

どんぐり倶楽部の糸山です。

>あの、もしかして、あの糸山先生ですか？

はい、その糸山です。PCは自分用のがあるといいですね。共有だと相手のファイルを消しかねません。Macの型落ちPBG4(powerbookg4)あたりなら、かなりお手頃ですよ。OSは10.4.11でいいでしょうね。

シュタイナーは入り口は正解なのでラッキーでしたね。ただし、その先がありませんので12才までの対応はできません。

どんぐり倶楽部の糸山です。

送っておきました。

>シュタイナー幼稚園のお友達にどんぐりを紹介してどんどん輪が広がってます。

●5才から1年かけてどんぐり倶楽部スタイルに移行すると、バランスよく子育てが進むようですね。

※逆に言うと、5才以降は、シュタイナーではバランスが悪くなるということです。

どんぐり倶楽部の糸山です。

シュタイナー幼稚園の生徒さんからはよく相談を受けます。残念ながらシュタイナーには5才以降の教育理論がありません。入り口（これは、いいといっても、これも「理論」ではありません）はいいのですが先がありません。5-6歳で切り替える必要があります。ですから、どんぐり倶楽部の問題は年長さんからあるんです。7才までやってしまうと遅すぎることになります。5-6が移行期だからです。興味があるようでしたら詳細はHPにあります。

モンテとシュタイナーに関する追記

モンテは、早い時期から、手順の理解に重点を移動させているので、心ならずも残念なことに、本当の理解からは離れていく。手順理解にすぎないので、手順を覚えて、その処理を追うことが学ぶことだと思ってしまい、中途半端になってしまうのだ。それも、手順理解の補助として物を利用することで、自力で理解にたどりつけないという、非常に中途半端な理解のさせ方をするので、小学校高学年までの内容をモンテ式では、必然的に扱うことができない。

扱えない理由は、そこに教育理論自体がないからである。

算数についていえば、方程式と比を理解することができなければ、高学年での内容理解はあり得ないが、モンテにはそれが無い。逆に、手順は小2で完了するので、モンテもそこまでしかないのである。手順は足し算だけであり、他は、その応用である。

また、手順理解なので、やってはいけない反復も奨励するし、与えてはいけないヒントも最初から組み込んである。それが、教具である。エンピツと紙と体以外に必要なもの、使っていいものは、理論だけである。この時点で、残念ながら、モンテは使えない。

シュタイナーにも、理論はないが、幸いなことに5才までは有効な自発性と同調性を使った教育方法を採用しているので、5才からどنگりに移行すれば、問題はない。ただし、この時期に移行をしないと、ズルズルと、ボンヤリとした感情・感覚の肥大が始まる。シュタイナーの危険なところは、このアンバランスな状態をよしとするレッスンが必修になっている点にある。この点1つを考えてみても、教育理論は持っておらず、偶然に任せる後半(肝心な高学年)にならざるをえない。高学年で冴えないのは、コレが原因である。そして、高学年で生きてこない低学年の教育は、それは、勘違い教育だということである。つまり、シュタイナー教育は、致命的な欠陥を抱えている教育方法だということである。

また、この肥大(頭のアンバランス状態)は、修正に時間がかかる。

文系頭を理系頭にするのが難しいというのに似ている。

さらに、このアンバランスな状態は、人間としても弱く育ててしまう傾向が強い。コントロールできない感情に自分がコントロールされると言う不安定な状態も作りやすくしてしまうという具合である。

思考の停滞は、なぜ起こるのか。

1、計算式の強化の副作用：立式病

2、楽しみ絵の強化の副作用：アンバランス：感覚的表現過多→モンテの幼児期・シュタイナー

音や味(視覚イメージ以外)では、思考はできないので、逆に考えると、独立した感情教育は、絵以外ですか、モード変換ができるまで絵ではしないことがキーポイントになるということである。

つまり、楽しんでOKというだけの絵図は、思考に移る時期には、思考(視覚イメージの操作)の邪魔をすることになるので、注意が必要となる。ココを、「絵だから」という理由で、修正をかけないと、ダラダラと感情表現や再現止まりの絵から進展しない。

芸術系は、「絵」ならば、見るだけにおさえるのも一手である。

その点楽器系は、適している。というのも、楽器系は、肉体制御を含むので、スポーツと同様に、反復の必要性も身につけられるので嫌いでなければ、好都合である。

音を楽しむことで、思考の停滞は、ない。絵は、モード変換ができる年齢になってから練習するのがいい。

感情・感覚表現としての絵の強化をしてしまうと、絵で考えること(思考そのもの)をしなくなる。

するなら、どちらも同時に、あるいは、シフトしてすることが可能な、モード変換をしながら両方にも強化するといいい。楽しみの絵+考える絵=楽しし考える絵

途中からでもうまく成長する場合

勉強以外の所でキチンと感情育成ができていた場合と、子供自身が自分を守るために、余計な刺激を受けつけなくて自分を守ってきた場合

何れも親ではなく、子供自身が、自分で作ってきた思考回路と感情回路を利用できる場合に限られる。原形回路を持っていない場合や、非常に貧しい場合には、猿真似学習にしかならないので、解けるようにはなっても、そこに楽しさが見いだされることは少ない。

2~12の10年教育が、いかに大事であり、5才までは、知育をしないこと、5~6才の就学前に「言葉絵遊び」をすることが望ましく、6~9までは、絶対に出力を求めず、評価をしないことが大事。

さらに、9~12では工夫をせざるを得ない「分からん帳」の完全消化を目指すことで、最良のステージに立てる。

小さいときからさせていても効果がない場合→日常生活が忙しく、考えない習慣が根深い。過度に感覚的な生活をしており、適度な気配りや緊張がないダラリとした日常のみ。

外でシャキシャキ、中ダラリがいい。

中でシャキシャキ、外ダラリでは、安心安定できないので不利な点が多い。

よくないのが、中でシャキシャキ、外でもシャキーン。ヨコミネ式等

と
中でダラダラ、外でもダラリ。シュタイナー等

大事なのは健全なバランスである。また、もう1つは安心・安定できるHOMEが家庭になっていることである。HOMEが外にあるのでは、外部依存となる。外で成長することになるので、成長が見えない。大人になってしまえば個人なのだから問題はないが、それでは子育てはしていないことになる。

健全な子育てと教育のヒント□どんぐり倶楽部の雑記帳

Good Education with Smart Learning by DONGURI-CLUB

■「人智学指導原則」ルドルフ・シュタイナー より(文責：どんぐり倶楽部)

●どんぐり倶楽部では、既に、この著作世界の遙か先の点で活動しておりますので、直接的な影響は全くありませんが、約90年前という1924年時点に内面観察を、これだけ丁寧に行っていたルドルフ・シュタイナーの観察眼は素晴らしいです。

プラトンまでのギリシャ哲学の系譜とも言える内省を含んでいます。

この眼は、外面観察の素晴らしい眼を持っていたモンテッソーリと共通する感覚を受けます。

ただ、どちらも、追求が中途半端なまま、理論構成をしてしまったので、途中から、脱線してしまっているのは、非常に残念です。

今回、モンテッソーリの著作を読んだ時 <http://reonreon.com/monte.html> と同様に、シュタイナーが直接書いた著作(手紙も含む)を読んで「惜しいなあ」と思いました。「人智学指導原則」ルドルフ・シュタイナー著/西川隆範訳(水声社)書き起こす時間的な余裕が無いので、本に書き込んでいる一部を掲載する。

>シュタイナーは、人間は7年ごとの周期で大きく発達していくと言います。生まれてから永久歯の生えてくる7歳までが第一段階で～

●乳歯から永久歯への生えかわりは、7才ではなくて、6歳頃から12歳頃であり、また、歯肉の中では5才から準備が始まっています。つまり、移行期は5~6才で、本格稼働が、6~12才なのです。

つまり、7才までと考えていると、最も重要な理論思考への移行最適期を逃してしまうのです。

このズレが、実は非常にやっかいなことなんです。

>「大人が何を言うかではなく、どのようなあり方をするかが、生まれてから7歳までの子どもに作用する」7歳までは、知的なことを教えて学ばせるよりも、健康な身体と自分の意志で動く力を育てることが、後々のやる気、集中力、持続力などの力につながる、苦しい勉強に耐えうる力にもなる、というのがシュタイナーの教育です。

シュタイナーは「遊びのように楽しく勉強することができると思ったら大間違いです。勉強は苦しいものです」とヴァルドルフ学校の子供達に語っている。

●致命的な勘違い：思考力とはなにか(思考力と感情感覚の相互関係)の分析不足

●どうして、アンバランスになるのか。どうしてごく一部の子供だけが開花するのか?←偶然に思考と感情操作の材料が同じだと分かった本人の力。

→ここを、シュタイナーの中に組み込めば理論的思考も同じ方法で身につけることができる。

→ただし、シュタイナー教育は自身で完結していると思っているのでこの部分の改変はしない。

すると、どんぐり倶楽部という別系統の教育理論が必要になる。